

キャンパスのクラウド化って？

IT センター副所長
榎原博之

近年、高騰している IT 費用の削減を目指して企業を中心に情報システムのクラウド化や BYOD (Bring Your Own Device) が注目されている。果して IT 費用の削減につながるであろうか。また、大学に合ったシステムとはどんなものであろうか。これらを検討するため、今年度 IT センターでは所員会議メンバーが中心となって BYOD とクラウド化について検討を行った。具体的な内容は本年報の「関西大学への BYOD の導入について」と「キャンパスクラウド化の現状」の記事をご覧ください。私は主にキャンパスのクラウド化について検討した。クラウド化とは、自社内で運用していた情報システム等をインターネットを通じてクラウドサービスに置き換えることである。要するに、IT リソースのアウトソーシングである。関西大学では、既に、ウェブサーバやファイルサーバ等を学外のデータセンターに設置している。今後、メールサービスなどのクラウド化が検討されている。

クラウド化を検討するにあたり、クラウド化が進んでいる広島大学と静岡大学の担当者に来ていただき講演をお願いした。広島大学では、まず「クラウドサービス利用ガイドライン」を制定しクラウドサービスの内容を明らかにし、さらに、クラウド化の際に考慮すべきチェックリストを作成した。このガイドラインに従い、教務システムも含めほとんどの情報システムをクラウド化している。ただし、今のところコストの削減にはつながっていないようである。静岡大学では、クラウド化を行うためにまず組織改革を実施した。意志決定できない総合情報処理センターから情報基盤機構センターという大学直下の組織に改革し、大学全体の意志決定をトップダウンでできる仕組みを構築した。東海地震への対策としても有効なことから、サーバ、PC、ストレージ、認証のクラウド化を実現している。クラウド化の結果、エネルギー費用の削減に成功しているが、コストの削減には至っていないようである。

一口にクラウドと言っても千差万別である。まず、どのサービスやどの情報をクラウド化するかが重要である。広島大学では、個人情報が含まれる教務情報や、広島大学病院の患者情報なども含まれるようであるが、文書の重要度とクラウドサービスの信頼度を4つに分類し、明確に規定している。また、クラウドサービスには大きく分けて3つのレベル(ソフトウェア提供、プラットフォーム一式提供、サーバ機能のみ提供)があり、どのレベルのサービスを採用するかも重要である。たとえば、メールサービスを例にとると、クラウド提供業

者が用意したメールアプリを利用する場合や、クラウド提供業者が用意した仮想サーバ上のプラットフォームを利用してメールアプリを導入して管理する場合、クラウド提供業者から仮想サーバを借りてそのサーバに OS やメールアプリ等を導入して管理する場合に分けられる。さらに、信頼性の観点からの分類も考えられる。複数のユーザでアプリを共有するものから、複数のユーザでクラウド基盤を共有するもの、クラウド基盤を占有するもの、クラウド基盤を自社運用するものまで存在する。このように全学的にクラウド化を実施するためには、多面的な検討が必要である。